

一般財団法人 Ruby アソシエーション

臨時評議員会 議事録

- 1 開催場所：都道府県会館 4階 408会議室（東京都千代田区平河町2丁目6-3）
- 2 開催日時： 2014年2月26日(水) 14:00～15:00
- 3 評議員総数及び定足数：現在総数13名、定足数7名
- 4 出席評議員数：10名
（本人出席）石川明、大場寧子、及川喜之、後藤裕蔵、立久井正和、中島宏、羽田昭裕、平松知江子、
吉田正敏、吉岡宏
（欠席）出田健二、最首英裕、森正弥
- 5 出席理事：松本行弘、井上浩、笹田耕一、橋本明彦
- 6 事務局：前田修吾、横田早百合、徳永翔二、杉原健司（支援スタッフ）、福田一斎（支援スタッフ）、
頃末和義
- 7 オブザーバ出席：高橋征義

以上のとおり評議員の出席があり本評議員会は適法に成立したので、出席評議員から立久井正和が議長として選出され開会を宣し、出席評議員から後藤裕蔵、平松知江子が議事録署名人として選出された。先ず、新たに評議員に選任された石川評議員、事務局スタッフとなった徳永事務局員及び頃末事務局員から就任の挨拶があり、報告事項に先立ち松本理事長から挨拶があり、続いて協議に入った。

8 内容

1) 松本理事長挨拶

- ・Ruby 自体の将来に不安はない。
- ・一方で Ruby アソシエーションとしてビジネストレンドをどう作るか。標準維持、会員企業への価値の提供、海外でのポジションの確立、収入の安定化など課題は多い。
- ・可能な限りの方策を講じていきたい。
- ・本日も評議員には助言をお願いしたい。

2) 報告事項

(1) 今期の事業実施状況

議長が事務局に説明を求めた。徳永事務局員が別添資料に基づき説明した。
議場より特段の意見、質問はなかった。

(2) 2013 年度 1 月補正予算

議長が事務局に説明を求めた。前田事務局長、横田事務局員が主な支出増、収入増の項目を中心に補正予算の内容を別添資料に基づき説明した。
議場より特段の意見、質問はなかった。

(3) 情報発信事業

議長が事務局に説明を求めた。徳永事務局員が利用事例のライター採用、軽量版の公開・周知について別添資料に基づき説明した。

以下、質疑応答

吉田評議員：事例軽量版の提案者として検討・実施に感謝する。事例内容はそのまま掲載されるように思えるが、内容のチェックは必要と考えるがいかかがか。

徳永事務局員：現状の案では、チェックをせずにそのまま掲載することを考えている。

松本理事長：例えばどのようなチェックが必要となるのか。

吉田 評 議 員：例えば、当財団に否定的なリンクがある場合など。

前田事務局長：明らかに問題があるものは事後的に削除したい。

松本理事長：「不適正な内容は削除する場合がある」と予め明記しておきたい。

大場 評 議 員：事例情報に Ruby のバージョン情報も掲載して欲しい。財団として利用者に最新の Ruby にバージョンにアップしてもらうことも促したい。また、いつの時点の記事であるかも掲載して欲しい。

松本理事長：事例の掲載期限は想定しているのか。

徳永事務局長：掲載期限は特に考えてないので、掲載日付は必要。バージョン情報に関しては検討したい。

3) 協議事項

(1) 2014 年度 事業計画書 (案) について

議長が事務局に説明を求めた。前田事務局長が別添「2014 年度 事業計画書 (案)」に基づき説明した。

以下、質疑応答

羽田 評 議 員：安定版保守の公募に、現状で応募がない理由はなにか、又応募が無かった場合の対応は検討しているか。

前田事務局長：メンテナンスが出来る方は限定される。その方々の現在の忙しき、状況によると思われる。コミュニティでのメンテナンス体制は協議しているので応募が無かった場合でも、すぐに問題が発生することは無い。

(2) 2014 年度 予算 (案) について

議長が事務局に説明を求めた。横田事務局長が別添「2014 年度 予算 (案)」に基づき説明した。議場より特段の意見、質問はなかった。

(3) 公益認定申請について

議長が事務局に説明を求めた。杉原支援スタッフが以下のとおり説明した。

「財団設立当初より、公益認定を目指してきたが、公益認定等委員会事務局からは、現行の事業による申請内容は、受益者が一部の者に限られる共益活動ではないかとの見解が示された。若年者教育、地域産業振興等を軸に事業を再構築すれば、公益性を認められる可能性は高まるものの、それでは財団の事業趣旨が変わってしまう。事業趣旨を変えてまで、公益法人にする必要があるとは思えないため、事務局として公益法人化を断念したいと考え、ついては評議員の意見を伺いたい。」

議場より特段の意見、質問はなかった。

4) その他

松本理事長：一部の協賛会員から来期の協賛継続が出来ないとの申し出もいただいている。会員メリットを一層明確にする必要があると感じている。協賛する側の経営者視点でご意見を頂きたい。

吉田 評 議 員：協賛することで、市場から先進的企業と認知されるといった形で企業価値向上につながるるとよい。また、支出する協賛金額に見合うリターンがあるとよい。後者は、有料セミナーへの無料参加など。

前田事務局長：現在でも年1回の有料セミナーは協賛口数に応じた無料参加の特典は用意している。

大場 評 議 員：協賛企業が自社の名刺に掲示するための名刺用ロゴを提供するとよいのでは。また、RubyWorld Conference への協賛時に割引があるとよい。

前田事務局長：名刺用ロゴは検討したい。RubyWorld Conference は実行委員会形式であり、当財団も一構成機関に過ぎないため協賛割引の特典は困難。

立久井 議 長：企業は最終的にはメリットを金額換算で評価する。例えばビジネスセミナーに参加

した場合に、交換した名刺 1 枚当たりの協賛金額が幾らであるか。こうした機会を増やすことは重要。また、技術情報を充実させることも考えて欲しい。

大場 評議員：財団の認定教育機関向けに協賛企業のリスト、PR 情報を提供するなどして、就職先と求人を上手く結びつけることが出来ると協賛会員にもメリットを感じてもらえるのでは。

松本 理事長：それぞれの意見に感謝したい。出来るところから取り組みたい。

上記の協議内容を明確にするため、この議事録を作成し、議長及び議事録署名人がこれに記名押印する。

2014年2月26日

一般財団法人Rubyアソシエーション評議員会

議長 立久井 正和 印

議事録署名人 後藤 裕蔵 印

議事録署名人 平松 知江子 印

2013 年度（第 3 事業年度）

「事業実施状況」

一般財団法人 Ruby アソシエーション

1 事業の概要

Ruby は昨年 2 月にはその開発から 20 年を迎えるとともに、5 年ぶりのメジャーバージョンとして Ruby2.0 がリリースされ、Ruby は新たな時代へと突入しました。

2013 年度は、こうした背景を元にした Ruby のビジネス利用の拡がりとともに、一般財団法人 Ruby アソシエーション（以下、「当財団」と言う。）への期待も高まった一年でした。当財団は、その目的である Ruby 関連のプロジェクトやコミュニティ、ビジネスの関係をより良好なものとし（「Ruby Eco System」の構築）、ビジネス分野における Ruby の利用に関する諸課題の解決に取り組みました。

本書では当財団の 2013 年度の実施実施状況について報告します。

2 体制及びその変更

1) 評議員

2013 年度評議員

- ・ 出田 健二 (株)まちづくり三鷹 経営事業部企画事業グループマネージャ
 - ・ 及川 喜之 (株)セールスフォース・ドットコム CTO
 - ・ 大場 寧子 (株)万葉 代表取締役社長
 - ・ 後藤 裕蔵 (株)ネットワーク応用通信研究所 取締役
 - ・ 最首 英裕 (株)グルーヴノーツ 代表取締役社長
 - ・ 石川 明 (株)日立ソリューションズ 技術統括本部 副統括本部長
 - ・ 立久井 正和 (株)インターネットイニシアティブ
サービス本部 プラットフォームサービス部長
 - ・ 中島 宏 (株)DTS IT インテグレーション事業本部 IT プラットフォーム部 部長
 - ・ 羽田 昭裕 日本ユニシス(株) 総合技術研究所 所長
 - ・ 平松 知江子 (株)富士通ソーシアルサイエンスラボラトリ
生産革新技術センター長代理 兼 OSS ビジネス推進部長
 - ・ 森 正弥 (株)楽天 執行役員 兼 楽天技術研究所 所長
 - ・ 吉岡 宏 (株)テクノプロジェクト 代表取締役社長
 - ・ 吉田 正敏 富士通(株) プラットフォーム技術本部 チーフストラテジスト
- ※2013 年 12 月の正村勉評議員（当時）の辞任により石川氏が評議員に就任。

2) 理事

- ・ 代表理事 理事長 松本 行弘
 - ・ 副理事長 井上 浩
 - ・ 理事 山根 泉
橋本 明彦
田中 和明
笹田 耕一
- ※2013 年 6 月の澤田盛繁理事（当時）の辞任により山根氏が理事に就任。

3) 監事、顧問及び事務局

- ・ 監 事 今岡 正一（公認会計士）
- ・ 顧 問 松浦 正敬 松江市長、溝口 善兵衛 島根県知事
- ・ 事務局 前田修吾（事務局長）が事務局業務全般を統括し、常勤スタッフ 2 名の他、松江市、島根県による人的支援によって運営しました。その他、事例収集のため外部のライターと、規格文書の保守および改訂の作業のため外部の専門家と契約を行っています。

4) 評議員選定委員会

- ・ 委員長 立久井 正和（評議員）
- ・ 委 員 今岡 正一（監事）、横田 早百合（事務局員）、
田代 秀一（外部委員）、高橋 征義（外部委員）

3 実施事業

1) 公募型開発支援プロジェクト

Ruby 及び周辺環境の改善を目的に Ruby 処理系、ライブラリ及びフレームワークに関連する開発プロジェクト（既存のソフトウェアを改良するプロジェクトを含む）を公募し、グラント委員会で選考の結果、以下 3 件のプロジェクトを採択しました。

いずれも 2014 年 3 月 31 日までに開発を終え、その成果を公開します。

- ・ 公募期間：2013 年 9 月 5 日 ～ 10 月 7 日
- ・ 応募件数：8 件
- ・ 採択件数：3 件

①採択者：Daniel Berger	プロジェクト：Win32Utils Support
Win32Utils は Windows オペレーティングシステム向けに一連の Ruby ライブラリーを提供するプロジェクトです。このプロジェクトは既にいくつか存在している Win32API ライブラリーを FFI や OLE に移植することをゴールとしています。これによって、JRuby のような他の処理系との互換性を向上させ、コードをより堅牢なものにします。	
②採択者：Laura Garcia	プロジェクト：Conductor
Creosote プロジェクトは Ruby エコシステムで利用可能ないくつかの強力な数学ライブラリーを開発します。現在は、数学的 GMP、MPFR、Msieve ライブラリーの Ruby バインディング(C拡張)をメンテナンスしています。今日、これらのライブラリーは別個の gem で提供されており、お互いのライブラリーの存在を認識しにくくなっています。これらのライブラリーを含めて、より多くの数学ライブラリーを含む Creosote プロジェクトを成長されることを目的としています。	
②採択者：Kouji Takao	プロジェクト：Smalruby - smalruby-editor
Smalruby（すもうるびー）とは、小学校高学年から中学生向けの Ruby 学習環境を提供するためのプロジェクトです。本プロジェクトのゴールは Scratch(http://scratch.mit.edu/)のようなソフトウェアやコミュニティサイトを Ruby で実現することです。Scratch は小学生でも使える教育用のプログラミング環境として実績があります。本プロジェクトは次のソフトウェア、ハードウェア、ドキュメントから構成されます。2013 年度助成金事業ではこのうち smalruby-editor を開発します。	

2) Ruby 安定版保守事業

ユーザが安心して Ruby を利用できる環境を構築するため、Ruby 安定版の保守事業を実施しています。事業仕様策定後に業務を外部機関に委託することと、委託先の選定に際し公募を行った結果、株式会社 TOUA に決定いたしました。委託期間 2014 年 3 月 31 日までです。

3) Rubyに関する情報発信事業

(1) Webでの情報発信

協賛会員をはじめ、Ruby をビジネス利用する企業に利用事例作成編集の担当スタッフが当該企業担当者に直接面談し、概要情報と詳細情報の作成を行いました。これらの情報は、利用時の背景事情、適用されたビジネス・システム分野やその特性など、利用企業のみならずエンドユーザ(企業や個人の場合あり)の損益にも深く関わる場合があることから、公開前に利用企業等による内容確認を実施し(その際にエンドユーザに了解を得ることもあった)、関係者合意の上で財団ホームページに掲載しました。2013 年度は新たに 4 件の利用事例を紹介しました。

2013 年度 新規掲載企業	テーマ
株式会社アールラーニング	エンジニア達の思いから始まった勤怠管理システム「新月-SHINGETU」
株式会社 DTS	Ruby とクラウドサービスで実現した EC 決済共通基盤
株式会社クレオネットワークス	クラウド型 BPM ツール「BizOne/BizPlatform」シリーズとして提供
株式会社日立ソリューションズ	Ruby の高い生産性で実現したリメディアル教育システム

(2) RubyWorld Conferenceの開催

2013 年 11 月 21 日(木)、22 日(金)、島根県立産業交流会館「くにびきメッセ」(島根県松江市)にて 5 回目となる「RubyWorld Conference 2013」を開催しました。主催は、RubyWorld Conference 開催実行委員会(構成機関:当財団、島根県、松江市、島根大学、松江高専、ジェトロ松江、しまね産業振興財団、島根県情報産業協会、しまね OSS 協議会、経済産業省中国経済産業局)、その他、多くの機関の後援、協賛をいただき実施しました。

今回の国際会議では、Ruby に関するビジネス利用事例や、最新技術の情報、開発者教育の状況などを紹介する様々なセッションを通じて、Ruby がより多くの領域に普及していくことを目指し、国内外 16 名が講演し、来場者数は 2 日間で延べ 901 名(詳しくは下記を参照)を数えました。

オープニング・セレモニーで、まつもと実行委員長、溝口善兵衛島根県知事、松浦正敬松江市長の挨拶に続き、経済産業省商務情報政策局 小池雅行 地域情報化人材育成推進室長に来賓ご挨拶をいただきました。

引き続き基調講演では、Ruby の開発者まつもと委員長が「Aiming the Moving Target」と題し講演。また、2 日目の基調講演では、GitHub Inc.の共同創業者兼最高経営責任者(CEO)、Tom Preston-Werner 氏が「The Internet Axiom: Escaping the Tyranny of Time and Space」と題して、ビジネスにお

けるインターネットの有り方についてご講演いただきました。

初日の午後は、新たに Ruby コミュニティに貢献した方の活動を表彰する、「Ruby コミュニティの新人賞」として、今年からスタートした Ruby Prize 受賞者の発表と表彰が行われました。

その他、国内外の Ruby の技術者、企業関係者が講演し Ruby の更なる普及・発展に向けて活発に議論がなされました。

なお、クロージング・セレモニーでは、井上浩 実行委員会副委員長が、2日間の議論を振り返るとともに、来年の Conference の開催意向を表明し、閉幕しました。

●来場者について

2日間延べ 901名（11月21日 491名、11月22日 410名）

来場実数 619名（県内 231名、県外 380名、海外 8名）

- ・IT企業関係者 392名（県内 101名、県外 285名、海外 6名）
- ・その他企業関係者 61名（県内 39名、県外 22名）
- ・行政関係者 88名（県内 61名、県外 27名）
- ・研究教育機関関係者 33名（県内 16名、県外 17名）
- ・一般（所属なし） 29名（県内 12名、県外 17名）
- ・講演者 16名（県内 2名、県外 12名、海外 2名）

※Ruby Prize 含む

●講演者について

- ・国内 14名（企業関係者 14名）
- ・海外 2名（アメリカ 2名、いずれも企業関係者 2名）

（3）Ruby ビジネスセミナー

当財団の単独主催、又は関係機関との共催、協力を得てビジネスセミナーを4回開催致しました。これらのセミナーでは、Ruby の利用状況と今後のビジネストレンドをはじめ、開発現場で必要とされる技術情報など、開催地の状況に応じた話題提供をすることで参加者のニーズに合わせたセミナー機会を提供しました。また、セミナー後の質疑応答やセミナー後の意見交換の場など、Web 上だけではない「リアルなビジネス交流」の機会を提供しました。

各セミナーでは参加者にアンケートを実施し、情報発信事業に対する評価と当財団への要望も意見集約し、今後の事業内容の検討にも活用しています。

開催時期、会場	開催テーマ	来場者数 (名)	備考
2013年7月、東京	PaaS	約100名	IIJ主催に開催協力
2013年11月、東京	Ruby、Cloudビジネス	約80名	単独開催
2013年12月、東京	技術者向けセミナー	約80名	単独開催
2014年1月、大阪	エンタープライズ Ruby	約90名	Rubyビジネス推進協議 会が開催協力

4) Ruby技術者認定試験事業

2013年度も、Rubyベースのシステムを設計、開発、運用するエンジニア、Rubyでシステム提案を行うコンサルタント、Rubyを教える講師などを対象とした認定試験制度を実施しました。

認定者は、Ruby技術者としての技術力を公正に評価され、高い水準のRubyによるシステム開発能力を持つことを認定されます。認定によりRubyベースでシステム開発を行ううえで必要な基礎的な知識と応用力をもつことをアピールすることができます。

試験の合格者は、当財団が「Ruby Association Certified Ruby Programmer」として認定します。現在は、国内(試験区分：Silver、Gold)、海外(試験区分：Silver)で実施しており、2012年10月より当財団が直営実施(CBT受験環境、オペレーションはプロメトリック社に委託)しており、安心して受験いただける環境を提供しています。

5) 事業者認定事業

従来から実施している認定システムインテグレータプログラム(Rubyの高い技術力を持った企業を認定)に加えて、2012年10月から認定教育機関プログラム(Rubyの教育をおこなう高い技術を持った企業を認定)、認定サポート事業者プログラム(Rubyのサポートサービスを提供する高い技術を持った企業を認定)、及び認定クラウドサービス事業者プログラム(Rubyアプリケーションの運用に適したクラウドサービス(IaaS、PaaS)をおこなう高い技術を持った企業を認定)の各プログラムを実施しています。2013年12月31日時点での認定企業数は以下のとおりです。

認定種別	Gold	Silver
認定システムインテグレータプログラム	18(15)	58(55)
認定教育機関プログラム	3(2)	—
認定サポート事業者プログラム	2(2)	—
認定クラウドサービス事業者プログラム	3(2)	1(1)

※()内は前年度数

6) 協賛会員事業

・会員資格

法人、任意団体及び個人

・会員種別、会費

年会費 1口 10万円 (4月を開始月とします)

①Platinum Sponsor 5口以上 (50万円以上)

②Gold Sponsor 2口以上 (20万円以上)

③Silver Sponsor 1口以上 (10万円以上)

2013年12月31日時点での協賛会員数は、以下のとおりです。

Platinum : 年間5口以上	Gold : 年間2口以上	Silver : 年間1口以上
12(9)	19(17)	41(30)

※()内は前年度数

2013年度1月 一般財団法人Rubyアソシエーション 補正予算 2014.1.29 単位:千円

	2013年度6月補正予算①	2013年度1月補正予算案②	②-①
1 売上高			
1) Ruby技術者認定試験	15,600	16,186	586
2) 事業者認定事業	2,250	2,200	-50
3) その他事業収入	8,114	7,519	-595
小計	25,964	25,905	-59
2 特別利益(協賛金、寄附金)			
1) 協賛会員	13,300	13,900	600
2) 寄附金	210	10	-200
3) その他	0	4,573	4,573
小計	13,510	18,483	4,973
3 雑収入			
1) 預金利息 等	2	2	0
4 売上原価			
1) Ruby技術者認定試験	6,309	8,682	2,373
2) 事業者認定事業	540	200	-340
3) その他	0	0	0
小計	6,849	8,882	2,033
5 その他、事業費用			
1) 公募型開発プロジェクト	1,500	1,500	0
2) Ruby安定版の保守業務委託	3,400	3,277	-123
3) Web活用(情報発信事業)	725	486	-239
4) RubyWorld Conference開催	2,300	1,850	-450
5) ビジネスセミナー開催 等	2,660	1,745	-915
6) 標準化維持	1,000	662	-338
小計	11,585	9,520	-2,065
6 役員報酬			
監事報酬	1,200	900	-300
小計	1,200	900	-300
7 販売費及び一般管理費			
1) 職員人件費	7,000	6,477	-523
2) 賃借料(事務所+駐車場)	760	866	106
3) 旅費交通費(出張費)	1,875	1,782	-93
4) 通信運搬費(電話代、郵便代)	50	54	4
5) 消耗品費(事務用品他)	300	233	-67
6) 会議費	20	20	0
7) 使用料	0	0	0
8) 租税公課(固定資産税、印紙代)	100	54	-46
9) 手数料	150	104	-46
10) 委託費	800	133	-667
11) 報償費	0	0	0
※諸会費		0	0
※雑費	1,000	41	-959
小計	12,055	9,764	-2,291
8 総収入	39,476	44,390	4,914
9 総支出	31,689	29,063	-2,626
10 税引前当期純利益	7,787	15,327	7,540
11 法人税、住民税及び事業税	0	0	0
12 当期純利益	7,787	15,327	7,540
13 利益剰余金	18,281	25,821	7,540
※協賛会員数			
Platinum Sponsor (50万円)	12	12	0
Gold Sponsor (20万円)	17	19	2
Silver Sponsor (10万円)	39	41	2

事例ライト版への取り組み

事例ライトとは

Ruby 案件の「数」を収集することを重点におき昨年 8 月から取り組んでいるもう 1 つの事例紹介。

事例収集数：14 件 2014 年 2 月 24 日現在

収集数が 20 件以上になったところで財団のサイトへ掲載を検討する。以下はその掲載例。

Rubyアソシエーションとは	認定制度	協賛制度	事例紹介
----------------	------	------	------

[トップ](#) > [事例紹介](#) > [官公庁・研究機関](#)

官公庁・研究機関 事例紹介

Ruby accounting manager

システムの概要

Ruby Accounting managerは公会計専用のクラウド型会計システムです。Ruby on Rails により構築されています。インストール不要。スマートフォン、タブレットとマルチデバイスに対応。ボタン1つでメンバー共有ができるので会計事務所とのデータのやり取りが簡単です。

お問い合わせ先

一般財団法人Rubyアソシエーション
担当者：徳永
info@ruby.or.jp
TEL：050-5532-6886（直通）

一般財団法人 Ruby アソシエーション
「2014 年度 事業計画書」 (案)

2014 年 4 月 1 日から

2015 年 3 月 31 日まで

2014 年 3 月 日

一般財団法人 Ruby アソシエーション

目次

はじめに	2
1 組織体制	2
1) 評議員	
2) 理事	
3) スタッフ	
2 実施事業	
1) Ruby 及びその周辺技術の開発支援事業	2
2) 情報発信事業	2
3) Ruby 技術者認定試験事業	3
4) 事業者認定事業	4
5) 標準維持事業	4
6) 協賛会員事業	4
7) 寄付事業	4
3 関係機関との連携	4
1) 松江市、島根県及び中国経済産業局	
2) 日本 OSS 推進フォーラム	
3) その他、関係機関	
4 その他関係資料	5

はじめに

一般財団法人 Ruby アソシエーション（以下、「当財団」という。）は、Ruby の普及、発展と、ビジネス利用の拡大を目的として、2013 年度は、協賛会員などの支援のもと、公募型開発支援プロジェクト、安定版の保守事業、情報発信事業、技術者認定試験事業、並びに事業者認定事業に取り組んで参りました。

当財団を支援する協賛会員も順調に増えるなど、持続可能な産業循環である「Ruby Eco System」が確実に広がっています。

この「Ruby Eco System」をより強固なものにするために、当財団は、Ruby に関係する開発コミュニティ、企業及び支援機関の良好な関係を築き、Ruby を利用される多くの皆様の発展に寄与できるよう、2014 年度も様々な事業に取り組みます。

1 組織体制

1) 評議員

引き続き評議員 13 名の体制で、法令、定款に定める権限を行使します。

2) 理事

引き続き理事 6 名の体制で、定款の定めるところにより財団を運営します。

3) スタッフ

常勤スタッフ 2 名の体制を継続致します。その他、必要に応じて非常勤スタッフを活用するとともに、評議員輩出企業及び松江市、島根県による人的支援によって運営します。

2 実施事業

1) Ruby 及びその周辺技術の開発支援事業

(1) 公募型開発プロジェクト

Ruby 及び周辺環境の改善を目的に Ruby 処理系、ライブラリ及びフレームワークに関連する開発プロジェクト（既存のソフトウェアを改良するプロジェクトを含む）に対し、助成金を交付します。

(2) Ruby 安定版保守事業

Ruby を安心して利用できる環境の提供と、開発コミュニティが Ruby の新たな機能開発に集中できる環境づくりを目的に、Ruby 処理系の保守を行います。また、Ruby コミュニティが運用している www.ruby-lang.org のサーバー運営費に対して資金面で支援を行います。

2) 情報発信事業

(1) Web 活用

① 利用事例の紹介

これまで知られていなかった Ruby 利用事例を発掘し、充実した事例紹介の提供に努めます。この事例紹介では、日本 OSS 推進フォーラムなど関係機関と連携し、取り組みます。

② 技術情報の紹介

現在提供する「Ruby の導入から開発・運用に至るまでに必要とされる一連の情報」の精度向上に努めます。

(2) RubyWorld Conference 2014

2014年11月13日(木)、14日(金)に島根県松江市にて開催し、当財団を中心に松江市、島根県、島根大学などで構成するRubyWorld Conference 開催実行委員会によって準備、運営をします。従来同様に「Ruby Eco System (Rubyの持続可能な生態系)」をテーマに、国内外から講演者を招聘、及び発表者を一般公募し、Rubyの先進的な利用事例、最新の技術動向などの様々な情報を発信します。

(3) Ruby Prize

RubyWorld Conference2013で実施したRubyPrizeについて、今年度も開催することを松江市等と検討します。

(4) ビジネスセミナー

RubyWorld Conferenceと同様に、Rubyビジネスの中心地である東京、大阪、島根、福岡などで価値ある情報を提供するビジネスセミナーを開催します。2014年度も5回程度の開催を予定します。

なお、当財団による単独開催のほか、支援企業及び関係機関と連携して開催する場合があります。

3) Ruby 技術者認定試験事業

Rubyベースのシステムを設計、開発、運用するエンジニア、Rubyでシステム提案を行うコンサルタント、Rubyを教える講師などを対象とした認定試験を継続して実施します。試験の合格者は、Ruby技術者としての技術力を公正に評価され、高い水準のRubyによるシステム開発能力を有する「Ruby Association Certified Ruby Programmer Gold」、又は「同 Silver」として認定します。Rubyのバージョンアップに対応するために既存の1.8.7から2.1に対応した試験を本事業年度にリリース致します。

4) 事業者認定事業

各プログラムにて認定された事業者、教育機関は、質の高いRubyに関連したサービスを提供する者として当財団のホームページなどを通じて紹介します。

(1) Ruby アソシエーション認定システムインテグレータプログラム

Ruby技術者認定試験のGold、又はSilverの認定技術者が正社員として5名以上所属する事業者を、登録申請及び条件審査の後、「Ruby Association Certified System Integrator Gold」、又は「同 Silver」に認定します。

(2) Ruby アソシエーション認定教育機関プログラム

Ruby技術者認定試験のGold、又はSilverの認定技術者が正社員として2名以上所属し、教材として「Ruby公式資格教科書 Ruby技術者認定試験 Silver/Gold対応」を採用するか、同程度の内容を含むカリキュラムで、年間2回以上講習会などの教育を実施する教育機関を、登録申請及び条件審査の後、「Ruby Association Certified Educational Institution Gold」、又は「同 Silver」に認定します。

(3) Ruby アソシエーション認定サポート事業者プログラム

Ruby技術者認定試験のGold、又はSilverの認定技術者が正社員として2名以上所属し、Rubyのサポートサービスを提供する事業者を、登録申請及び条件審査の後、

「Ruby Association Certified Support Provider Gold」、又は「同 Silver」に認定します。

(4) Ruby アソシエーション認定クラウドサービス事業者プログラム

Ruby 技術者認定試験の Gold、又は Silver の認定技術者が正社員として 2 名以上所属し、ユーザが登録したアプリケーションを ISO/IEC 30170 に適合する処理系上で動作させることができるサービスを提供している事業者を、登録申請及び条件審査の後、「Ruby Association Certified Cloud Service Provider Gold」、又は「同 Silver」に認定します。

5) 標準維持事業

Ruby の言語仕様は、2012 年春、国際規格 (ISO/IEC 30170) に承認されました。当財団は、規格文書の保守及び改訂作業を行います。

6) 協賛会員事業

当財団では、Ruby の普及、発展を目指す事業に賛同し、支援いただける会員を募集することで財政基盤の安定化を図ります。募集対象は、法人、任意団体及び個人であり、支援いただく口数に応じて 3 区分を設けています (年会費: 1 口 10 万円、4 月を開始月とします)。

協賛会員区分

- | | |
|----------------------|-----------------|
| (1) Platinum Sponsor | 5 口以上 (50 万円以上) |
| (2) Gold Sponsor | 2 口以上 (20 万円以上) |
| (3) Silver Sponsor | 1 口以上 (10 万円以上) |

2014 年度は、Platinum Sponsor として 12 社、Gold Sponsor として 22 社、また、Silver Sponsor として 50 社のご賛同を見込んでいます。

当財団では、ホームページ、メーリングリスト、またビジネスセミナー等を通じて活動趣旨に賛同いただけるよう呼びかけます。

7) 寄付事業

上述の協賛会員事業のほか、当財団の事業に賛同、支援いただける方に向けて寄付を募集いたします。当財団では、ホームページ、メーリングリスト、またビジネスセミナー等を通じて活動趣旨に賛同いただけるよう呼びかけます。

3 関係機関との連携

当財団は、その目的の達成に向けて関係機関との連携を促進します。

1) 松江市、島根県

当財団は活動の拠点 (主たる事務所) を島根県松江市に置いています。これまでも当財団の活動に賛同、支援いただいた松江市、島根県及び中国経済産業局とは、一層連携を緊密にします。情報発信事業をはじめとした諸事業のみならず当財団の運営面においても支援いただくことで、充実した財団事業に取り組みます。

2) 日本 OSS 推進フォーラム

これまで同様に 2014 年度も同フォーラムの情報発信事業 (特に利用事例の公開) と連携した取り組みを進めます。

3) その他、関係機関

Ruby への取り組みを進める機関との連携を進めることは、当財団の目的の実現に向けて重要な課題です。特に以下の機関との連携、共同事業を検討します。

- ①一般社団法人 日本 Ruby の会
- ②福岡 Ruby・コンテンツビジネス振興会議
- ③NPO 法人 軽量 Ruby フォーラム
- ④Ruby ビジネス推進協議会
- ⑤Ruby Central
- ⑥その他、国内外の機関

4 その他関係資料

2014 年度予算を別に掲載します。

2014年度 一般財団法人Rubyアソシエーション 予算案 2014.2.26 単位:千円

	2013年度 決算見込①	2014年度 予算案②	②-①
1 売上高			
1) Ruby技術者認定試験	16,186	15,120	-1,066
2) 事業者認定事業	2,200	2,200	0
3) その他事業収入	7,519	1,242	-6,277
小計	25,905	18,562	-7,343
2 特別利益(協賛金、寄附金)			
1) 協賛会員	13,900	15,400	1,500
2) 寄附金	10	0	-10
3) その他	4,573	0	-4,573
小計	18,483	15,400	-3,083
3 雑収入			
1) 預金利息 等	2	2	0
4 売上原価			
1) Ruby技術者認定試験	8,682	7,720	-962
2) 事業者認定事業	200	540	340
3) その他	0	0	0
小計	8,882	8,260	-622
5 その他、事業費用			
1) 公募型開発プロジェクト	1,500	1,500	0
2) Ruby安定版の保守業務等	3,277	3,792	515
3) Web活用(情報発信事業)	486	900	414
4) RubyWorld Conference開催	1,850	2,300	450
5) ビジネスセミナー開催 等	1,745	975	-770
6) 標準化維持	662	1,000	338
小計	9,520	10,467	947
6 役員報酬			
監事報酬	900	600	-300
小計	900	600	-300
7 販売費及び一般管理費			
1) 職員人件費	6,477	8,040	1,563
2) 賃借料(事務所+駐車場)	866	1,164	298
3) 旅費交通費(出張費)	1,782	1,125	-657
4) 通信運搬費(電話代、郵便代)	54	36	-18
5) 消耗品費(事務用品他)	233	120	-113
6) 会議費	20	100	80
7) 使用料	0	60	60
8) 租税公課(固定資産税、印紙代)	54	60	6
9) 手数料	104	60	-44
10) 委託費	133	3,000	2,867
11) 報償費	0	0	0
※諸会費	0	0	0
※雑費	41	500	459
小計	9,764	14,265	4,501
8 総収入	44,390	33,964	-10,426
9 総支出	29,063	33,592	4,529
10 税引前当期純利益	15,327	372	-14,955
11 法人税、住民税及び事業税	0	0	0
12 当期純利益	15,327	372	-14,955
13 利益剰余金	25,821	26,193	372
※協賛会員数			
Platinum Sponsor (50万円)	12	12	0
Gold Sponsor (20万円)	19	22	3
Silver Sponsor (10万円)	41	50	9